

こどもたちが元気に登校する朝食堂

八尾市 こども朝食堂 「いってらっしゃい！」

かもめ会 村尾佳代子さんの思い



かもめ会 こども朝食堂「いってらっしゃい！」代表 村尾 佳代子さん

八尾市 こども若者部こども若者政策課 杉本 加容さん・中岡 祐太さん

社会福祉法人八尾市社会福祉協議会 地域福祉課 海道 志保さん・安本 律紀さん

インタビュー・ライター：大阪大学大学院経済学研究科 大阪府こども食堂ネットワーク 西山
 撮影：認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 圓藤

こどもたちが栄養たっぷりの朝ごはんを食べて、地域の人に「いってらっしゃい」と教室へ送り出される、そんな安心して朝ごはんが食べられる場所、朝食堂を学校の中につくる取り組みについて伺いました。

学校でのこどもたちとの触れ合いから生まれた



こども朝食堂「いってらっしゃい！」を始めたきっかけはなんですか？

村尾さん 私は学校支援ボランティアを長くしています。ある時、2時間目、3時間目になったらふた一っとなってる子がいることに気づきました。その子に「どうしたん？しんどいんか？」って聞いたら、「朝ごはん食べてない」と言って。そんな子が何人かいて、同じようなことが続きました。朝ごはんを食べてないこどもたちの様子を見てみると、貧しいとか家庭の事情とかだけじゃなくて、朝食食べるのがしんどかったり、食べる習慣がなかったりするんですね。そんな時、校長先生と話す機会があって、「朝ごはん食堂できたらいいのにな」って言ったところ、「学校使ってくださいっていいですよ」と言ってもらえたんです。部屋や物品の保管なども快諾していただきました。校長先生は2～3年後に始めると思われたみたいですが、学校の体制が替わると、また調整が必要になると思ったので、相談した年の3月ごろに「先生！今年の5月末から開催します！」とお伝えして、4月には新1年生も含めて、全児童にチラシを配付し、朝食堂を始めることができました。



協力してくれる人とつながる

「いってらっしゃい!」開設までどのように準備を進められましたか?

村尾さん 開設に向けた仲間づくりでは、まず、知り合いにパパパッと声をかけました。初めは5〜6名集まってくれて、その後話を聞いて参加してくれるようになった方もいて、今は13名になりました。メンバーには男性の方も4名いますし、手伝ってから仕事へ行く人もいます。

中岡さん 僕も実際に参加したのですが、“かもめ会”は、「お父ちゃん、これ早く焼いといてや」ってというようなやり取りもあって、皆さん、大きな家族みたいな感じです。

杉本さん 志が一致するメンバーが集まってできた団体なんですね。

村尾さん 開設に必要な手続きは八尾市の社会福祉協議会（以下、社協）に相談しました。社協とは、地域福祉の計画策定会議の前からつながりがあったので、会議に参加した時に相談しました。

海道さん 村尾さんから「こんなんしたいねん」とご相談を受けて、「すぐに動きましょう!」とお返ししました。

安本さん 村尾さんからご相談を受けて、まず校長先生とお話をしつつ、同時に近くのコミュニティセンターにも相談をして、正式に開設する方針が決まりました。開設にあたって、八尾市に補助金を申請することになり、申請書類に記載する内容を一緒に考えたり、提出方法を市へ確認したりして、申請までサポートさせてもらいました。

村尾さん あの時のサポートがなかったら、今頃、活動がごちゃごちゃになっていたと思います。本当に助かっています、ありがとう(^^)。その後も、社協のフードバンクからお米をいただいたり、お酢やお砂糖などの調味料をいただいたりしています。1回の開催でお米は3升炊くので、この物価高では、食材を買うと予算も難しく、フードバンクからの支援は本当に助かっています。

海道さん 私たちのフードバンク事業は、企業や大学と連携しています。企業ではライフやファミリーマート、大学では大阪経済法科大学のボランティアグループが食品を寄付する活動をされているので、そういったところから定期的に食品をいただいています。企業からは使える商品はどんどん使ってほしいと言っていただいて、定期的に一定量受け取っています。大学との連携は、八尾市に「いろんな活動しているよ」と情報をいただいて、つなげてもらったんですよ。

杉本さん 八尾市役所の中に、いろんな民間企業などと協働する部署があり、そのつながりで社協と大学がつながることができました。





「いってらっしゃい!」はどのように運営されているのですか？

村尾さん 申し込みは学校を通してチラシを配付しています。当初、50人くらいなら集まるかなと思ってましたが、申し込みが100人を超えたので、学校と相談して、参加者を低学年と高学年に分けて、それぞれ隔週で開催することになりました。本当なら全児童に参加してほしいけれど、人数が多いので、1回の開催で50人を目安にしています。途中、保護者からの要望を受けて、兄弟姉妹であれば、低学年・高学年どちらの会でも参加してもよいようにしました。開設当初は「とにかく時間どんだけかかるかわからへんしなあ」と言って、焼きそばパンなど、簡単に調理できるものにしていました。回数を重ねる中で、「今度からご飯いけそうやなあ」と話し合うようになりました。

中岡さん 活動から2か月後くらいには、炊き込みご飯出してはりますよね。直近のメニューも、から揚げやハンバーガー、小松菜の煮物など、すごく手間のかかるものばかりです。一緒に作らせてもらった時は、「ほんまに間に合うんかな」「あと30分しかないのに、ほんまに今から炊けますか？」って心配になったんですよ。

村尾さん でも間にあったでしょ？(^)メンバーの中で作業の分担がだいたい決まっているので、みんなが盛り付けまでバーっとやってくれるんですよ。周りに畑も多いので、そこで採れたカボチャをいただいた時には、「何する？何する？」「ほんなら天ぷらにしよう!」と言って、2鍋で一気に揚げたこともありました。ちゃんちゃん焼きも人気がありましたよ。

海道さん 朝からすごい!!

村尾さん 食材によって、例えば、小松菜や大根などの野菜は、お味噌汁やお浸し、白和えにできるよう下茹でをして保存するなど、工夫して使っています。保存用の冷蔵庫は、小学校のPTAのOB会から寄付をいただいて購入することができたので、フードバンクからの食材も保存できるようになりました。次の開催に向けたメニュー決めは、活動後に残れるメンバーで少し残って、「次何する？」「あれ残ってるし、これしょうか」という感じで決めます。次の活動日の朝になれば、みんな手分けして、バーツと作業してくれるので、助かっています。

杉本さん 社協のポスターに活動が載って、開催場所から少し遠方の方からも活動にボランティアで参加したいという連絡があったんですよ。

海道さん そうなんです。こども食堂の活動を掲載した広報物を各自治会の掲示板に出したところ、それを見て、参加したいという方が「何かしたいと思ってたんです」と社協に連絡をくれました。

村尾さん 社協から連絡をもらって、まずはその方と安本さんと3人でお会いしました。お会いして、お話したら、すごくいい方で、今も毎週来てくれています。先日、運転免許を更新しないと決められたそうですが、「電車で来ようかなあ」ともおっしゃっていたので、そのことを近くのコミュニティーセンターの職員さんに相談しました。すると、その職員さんがすぐに時刻表を調べてくださって、朝早い活動なので心配していましたが、引き続き活動に参加していただけることになりました。





もっとこどもたちと交流できる場に



「いってらっしゃい!」でのこどもたちとの交流について教えてくださいませんか？

村尾さん 活動を始めた頃は、申し込みをしているこどもたちだけを対象にしていました。けれど、活動をしていると、「登録してへんねんけど、僕もいい？」って言いながら、友達と一緒に来てくれる子がいるので、「いいよ、いいよ、一緒に食べて行き」と言うこともあります。こども同士と一緒に食べるということが楽しいようで、連れて来てくれるんですね。活動中は調理や配膳に忙しくて、もっと交流したいと、もどかしく思うところもありますが、こどもたちと道で会ったりすると「朝食堂のおばちゃん」って声をかけてくれたり、「楽しかった」「美味しかった」と言ってくれたりするので、それが何よりの励みになっています。

中岡さん 村尾さんは忙しくて交流ができないと言っておられますが、合間の時間を見つけて、この子は気になるなっていう子には「今日、来てくれてんな」と声をかけて、見守ってくださっています。僕も行ったとき、一緒に食べさせてもらったんですが、こどもたちはみんなと一緒に食べるということが楽しいんだなと感じました。食べきれずにいる子でも、にこにこ笑ってそこに座っていて、そういう場所があってもいいのかな、その場所にいることが嬉しいってことなのかなと思いました。こどもたちに声かけれてない、見れてないって言われていますが、バタバタと忙しくされていても、大人との関係性にどこかしら安心感がある空間を作られていると思います。参加させてもらって、家とはちょっと違う、見守られている安心感を感じました。

安本さん メンバーの方も忙しそうなんですけど、全然ピリピリした雰囲気はなくて、皆さん料理を運ぶ時なんか「お茶いるひと〜？お水いるひと〜？」と聞いたり、こどもとコミュニケーションを取って、交流したりしています。こども同士もコミュニケーションを取ったりしているのを見ると、本当に、これこそ『こどもの居場所』だなんて感じます。「いってらっしゃい!」というネーミングセンスもばっちりですね！

海道さん 「いってらっしゃい」って言われると最初は照れくさそうにしているけど、みんないつの間にか、すごく嬉しそうに「いってきます」って言ってるんです。「いってらっしゃい」と言ってもらえる安心感がすごいあるんだろうなと、言葉の大切さを感じます。



これからの「いってらっしゃい!」はどんなふうになっていくのでしょうか。

村尾さん 実は、平成28年頃からこども食堂をやってみたいと思っていました。当時、学校支援ボランティアを通して、朝食を食べていないような子への支援だけではなくて、こどもと話したり、交流したりできたら楽しいなと思って、ちょうど夫婦2人になるし、自宅のリビングで自主的にやったらいいかなと考えていたんです。準備のために、実際に活動しているところにも見に行って、カレーを食べて帰ってきたりもしていました。実際に活動しているこども食堂も見に行って、これなら自宅のできるなと思ったので、すぐに食品衛生責任者の資格も取りに行きました。それが今回、学校のご協力で朝食堂ができることになって、無事にその資格もお披露目できることになったんですよ(^^)。もちろん、学校の中での活動については、職員の中でも賛否両論、いろいろな考えがあります。例えば、時間ギリギリに食べに来て、朝礼に間に合わない子がいると、学校の中の活動としては気になります。でも、こういうことは活動をやってみてわかることなので、今まで8時開始だったのを7時50分からにして、こどもたちが来る時間帯をちょっと早めにしようか、と改善に向けた話し合いを学校とすることができました。私たちも8時20分にはおかわりは終わりにして、朝礼に間に合うように声をかけようということも決めました。こういった調整は、校長先生が正直に学校としての意見をお話してくれたことでできました。学校の理解、皆さんの協力があって、ここまでできたので、まずはこれを続けていけるようにしたいと思っています。

海道さん かもめ会の活動を見て、同じように学校と連携してこども食堂をやりたいという地域も生まれています。まだクリアすべき課題はありますが、先生方も協力してくださって、プレ開催する予定です。

村尾さん 学校、地域、家庭の三位一体の連携が、地域にもっと増えたらいいなと思います。

中岡さん 八尾市の中には、こどもの居場所づくりに興味のある人や活動を立ち上げたいという人は多くいて、こういった活動に対する機運は高いのではないかと感じています。

杉本さん 小学校での開催だけでなく、自分たちで活動を立ち上げようと思っている方から、「この地域にこどもっていますか？」というお問い合わせをいただくことがあります。一方で、私たちはこどもの数は把握できても、活動のニーズがあるかまでは答えられないところがあるので、社協とも連携して、こどもの居場所づくりをすすめていきたいと思っています。

